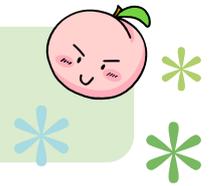


七夕のお話（中）



みなさん、こんにちは。今日は七夕のお話です。

7月7日の夜は、天の川をはさんでいつもはなればなれの「ひこ星」と「おり姫」が年に1度だけ会うことができるという日ですね。

七夕は、日本では古くから行われている行事で、季節の節目を表す五節句の1つです。

七夕には、短冊に願い事を書いて笹に飾る習慣があります。この習慣は、習い事をする人や寺小屋で学ぶ子どもが増えた江戸時代から始まりました。織物の上手なおり姫のように「習い事が上達しますように」とお願い事をしていました。笹の葉に飾ると、ひこ星とおり姫の力で願いがかない、みなさんを悪いものから守ってくれると信じられてきました。

今日は、七夕をイメージした「七夕汁」と「七夕ゼリー」です。

「七夕汁」には、月に見立てたうずら卵や、天の川をイメージしたさぼてんきしめん、星の形をしているオクラやかまぼこを入れました。その他にも、夏野菜のとうがんが入っています。とうがんには、夏バテを防ぐビタミンCが多く含まれているので、夏に食べるにはぴったりの野菜です。

七夕にひこ星とおり姫、そしてみなさんの願いがかないますように。